
南会津・大白沢クロウ沢右俣右沢

～東白沢ノ池周辺

増田 寿代

■山行年月日:2021年8月9～11日

■メンバー:増田寿代、小沼充範、
佐藤健

■コースタイム:

8/9 大白沢入溪(7:50)～荒山沢出合
(10:50)～アサユウ沢出合(13:45)～
1300m 二俣(15:55)～滝まで行って引き
返して幕(16:45)

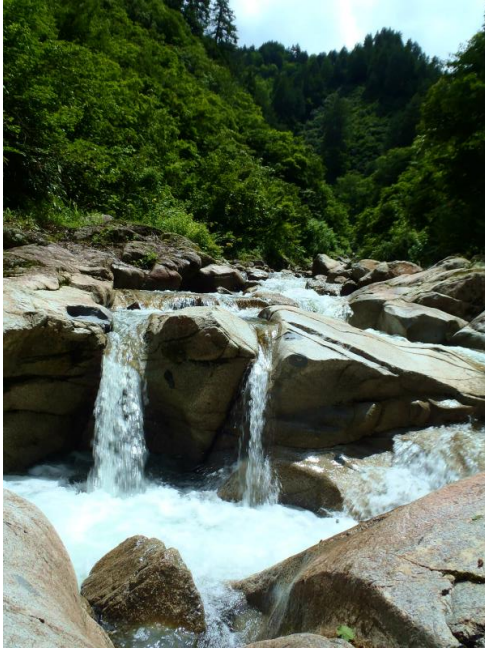
8/10 BP(7:15)～滝で引き返す(7:30)～
1370m 二俣(8:30-40)～25m 大滝下
(11:55-12:15)～1750m 二俣(13:30-40)
～東白沢の池(14:10)

私の職場は盆暮れ正月GWは10日ほどの連休となる。周りにそんな人は居ないので、近年はお盆に長めの山行のメンバーを得るのはなかなか難しかった。今年は会津山岳会に入会して初めての夏。まあ他に居ないだろうなあと思いながら2～3泊のルートを提案すると、ム沢で佐藤さんが今年のお盆は休みだから参加OKとのことで、大変嬉しい。また小沼さんもルートに興味があり休みを取ったとのことで、なんと3名で私の怪しいルートに行くことになった。しかしトリプル台風が日本に迫り、直前まで天気予報が良くない……。

8月9日(月)晴れ後曇り

小沢平に6時40分到着。桧枝岐からが遠かった。お二人は既に到着していた。佐藤さんが今朝の天気予報を確認したところ、明日は雨、明後日もあまり良くないとのこと。お気楽な私は、まあ、増水して困るのは今日だけだから行きましょうと、身支度を整えてから佐藤さん車に乗って砂子平へ。モッコ渡しを目指したが、私が別荘の裏手から踏み跡を辿り過ぎ、なんと大白沢出合まで出てしまった。水量は二年前に来た時よりは少ないような？スクラム組めば渡れそうだけれど、佐藤さんは『安全第一』なので、モッコ渡しまで戻ることにする。小沼さんはモッコ渡し経験者だが、実際乗るのはなかなか難しそうなので、ロープを出して渡渉。踏み跡を辿り、大白沢に出た。

右岸沿いに道が続いているので、大木の森の中に入る。森の中はどこでも泊まれそう。何度か枝沢を横断する地点で道は不明瞭になり、沢に降りたり、また見つけたりを繰り返す。池ノ沢あたりからは沢通しに行く。荒山沢出合を過ぎてクロウ沢に入ると青空が広がり絶好の沢日和となる。明るくて幅広の滝が多く、私の大好きな檜俣川に似た雰囲気です。ウキウキと楽しく登って行く。暑いので浸かったりシャワーになっても快適。大きな魚影もあり、



明るいクロウ沢

今日は幕場で釣りをしたいなと思う。

アサユウ沢出合では、アサユウ沢の方が大きくクロウ沢はだいぶ小さく感じる。小さいけれど出合はとっても深い瀬なので左から巻く。降りても無理そうな滝が続いているので、また登って草付きのトラバース。巻きは小沼さんにお任せ。巻き終わると沢は開けて左から小屋場沢が出合う。私はこの時点で結構疲れており、右岸に平たい草地があったのでここに泊まらないかと提案するが、お二人はまだ先に行きたい様子。では次の 1300m 二俣を目指しましょう。

大きな雪渓の残骸の隙間を通り、幅広の 6m 滝は左の端で荷揚げした後、超シャワーで登る。期待した 1300m 二俣はあまり平らではなく、当初の計画通り、1370m 二俣まで進むことにする。が、沢はゴルジュ状で急になり、どう見ても面倒な滝が見えてきた。その滝の上で沢は右

に曲がり滝が続いているようだし、この先に進むのは断念。引き返すにしても、すぐそこがクライムダウンできそうもないので懸垂。先ほどの 1300m 二俣の少し上まで戻り、右岸のヤブを切り開いて幕場とした。

残念なことにアサユウ沢と別れてからクロウ沢には全く魚影が無く、釣りは出来なかったが、焚き火を囲んでゆったりとした時間を過ごす。寝る間際には星空が広がっていた。明日の天気はどうなるだろうか。やたらと気温が高く、ツェルトを外してフライだけにしても暑い……。2 時過ぎに雨が降り出し、気温は急激に下がった。



初日は濡れても快適だった

8 月 10 日 (火) 雨

気温は下がって涼しくなったが、雨音であまりよく眠れなかった。ラジオを持ってこなかったのは失敗。雨はいつまで続くのだろうか？この幕場で様子を見ていても仕方ないし、増水すれば上にも下にも行けなくなってしまう。現時点で増水はしていないので、上を目指すことにする。

7 時過ぎに出発し、昨日引き返した滝まで行ってみるが、巻くしかなさそう。再び懸垂も交えて引き返し(この区間二往復

したな)左岸の小さなリッジを登る。私トップでは登り過ぎてしまい、先ほどの滝はとっくに過ぎていた。小沼さんにトップを交代し、針葉樹の森を進み小さな尾根をヤブ伝いに下って沢に戻る。その少し先が1370m 俣だった。この辺りもあまり良い幕場は無さそうだ。ここからクロウ沢右俣に入る。

右俣に入ると右手に大規模な崩壊地帯。そして3~5mの滝が連続する。この辺りから沢水が濁ってかなり増水していることに気づく。滝も水しぶきで真っ白。浸かったりシャワーになったり、すでに雨で全身濡れて冷えている体がさらに冷えていく。今回のルートは、登攀的要素は無いと言い切った私の根拠は何だったのでしょ？(大変申し訳ありません!)登山大系にあるのは左俣のみ。ネットで何か記録を見たような気がしたが、気のせいだったようだ。



手がかりはカム

難しい滝はロープを出して佐藤さんに登っていただく。手がかりのないところではまたカムが大活躍。つるつるの5m滝は、右岸の急な泥レンゼを滑りながら無理やり登ってトラバースをかけて巻く。続く5mもロープを出して左を登ると、目前に20mほどの大滝が現れた。水量が少なければ行けるのかもしれないけれど、今日はとても無理。左岸のレンゼを登ってトラバースに入りたかったが、なかなか急斜面なので、だいぶ上から斜面に入る。しかし進んで行くとかなりの斜度。雨でぬかるんでいるからうっかり滑ってしまい、皆さんを驚かせてしまいすみません。ヤブ伝いでも降りられないので、30m×2本で懸垂。ロープも一本でいいんじゃないかなあと考えたけれど、『安全第一』の佐藤さんが二本にしようと言ってくれて大正解でした。懸垂して降りたところは落ち口のちょうど上。やれやれと小滝を登っていくと、前方にまた大きな滝が！しかも三つ並んでいる！！ここ1600m地点。右から小さな枝沢が二本入り三俣になっている。水量が多いから枝沢も滝になっているのだ。一番大きな滝の方に進まねばならない。落差25mほど。佐藤さんは滝を見つめてルートが見えたようだが、やはり水量が多いので巻くことにする。私は寒くてたまらず、膝が震えてきた。もう12時だ。

小沼さんが右岸の針葉樹と岩のリッジに向かって登っていく。急だがしっかりした根っこがあるし泥じゃないので登り易い。沢に戻り、もう滝は無いかなと思ったが3m程の滝が続く…。そして空が広くなり、二俣となる。ここは最後の二俣かと



大滝その1

思ったが、GPS はその下を示している。ならここは左に行くのでは？と主張したが、ここは水量が多い右に行くべきと諭される。やはりその通りで、左は増水している枝沢だった(-_-;)。少し登れば1:1の平らな流れが出合う1760m 二俣となる。ここまで来ればもうさすがに滝は無いだろう。休憩して出発しようとする、左沢の向こうに樂園がチラッと見えてしまったので、これは寄らねば！寒くて仕方がないので寄り道。結構広めだった。小沼さんは残雪期に訪れたとのこと。残雪期も良さそうですね。蛇行する流れを辿って行けば、東白沢の池に続く湿原に飛び出した。風も出てきて寒くて堪らないので、笹の中に入る。平らなので泊るには良さそう。今日はここで幕とする。

フライを張って全身着替えて、着られるものは全て着ても寒い！ツェルトに入るとガスを付けると少し暖かくなりやっとホ

ッとする。今日はかなり修行になってしまった。私の想定が甘すぎたと反省。クロウ沢右俣が未知の沢であると言う意識がなく、地形図ではそんなに滝があるとは予想せず、天候もまあなんとかなるのではと楽観。増水して困るのは二日目も、でしたね……。クロウ沢がこんなに登攀的だとは！当初は大白沢往復の計画だったなんて浅はか過ぎる。そして標高1800m越えに泊まるということは寒さを予想すべきだった。甘〜い考えで想定外が沢山あったが、佐藤さんと小沼さんのお陰でなんとか無事に明日帰れそう。本当にありがとうございます。それに釣りが全くできずごめんなさい。(今年私まだ釣って無いな。)

時間はあるので、お湯割りを呑んでのんびりする。考えてみればガスも一個で良いんじゃない？って言ったな。『焚き火できないかもしれないよ』と言った佐藤さんが正しかったです。二個あって良かった。食後はヒレ酒にする予定だった佐藤さんの日本酒を熱燗でいただく。すっかり温まり、夜は快適に眠ることができた。明日は雨止んでください……！



翌朝の池

